お知らせ

平成１９年４月９日

同時提出先

島根県県政記者会、松江市政記者クラブ、出雲市政記者クラブ

斐伊川流域の水辺を考える懇談会
「宍道湖・大橋川の水辺のあり方」の提言について

記者発表資料

宍道湖周辺の水辺における取り組みなどをモデルケースとして、斐伊川流域の水辺の地域づくりや水辺景観のあり方などについてご議論いただくことを目的とした「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」では、これまで５回の懇談会を開催し、議論を重ねてきたところであります。

このたび、第５回懇談会までの議論が「宍道湖・大橋川の水辺のあり方」として、とりまとめられました。つきましては、藤岡大拙座長が出雲河川事務所長へ以下の日程にてご提言されますのでお知らせいたします。

１．日時　平成１９年４月１２日　１０：３０～

２．場所　出雲河川事務所内１階大会議室

過去の懇談会の概要、資料につきましては、出雲河川事務所ホームページでご確認いただけます。
http://www.izumokasen-mlit.go.jp/mizubekondankai/top.htm

参考資料１　設立趣旨
参考資料２　委員名簿

問　い　合　わ　せ　先

国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所　副所長（技）　土江（つちえ）　清司（せいじ）
調査設計課長　水草（みずくさ）　浩一（こういち）
ＴＥＬ（０８５３）２１－１８５０

（参考資料１）

斐伊川流域の水辺を考える懇談会

設　立　趣　旨

斐伊川流域の歴史は、洪水防御と新田開発、用水確保、舟運の発展など斐伊川の変遷とともにあり、沿川の人々の暮らしは、斐伊川のもたらす恵みを享受しながら発展してきた。流域の暮らしは今も斐伊川と密接なかかわりを持っており、これからの流域における地域づくりを考えるに際しては、この斐伊川の水や自然、景観などどう捉え、どう向き合っていくのかが大きなテーマとなる。

斐伊川流域の中でも、美しい景観を保ち、地域のシンボルとして愛されている宍道湖は、島根県を代表する観光資源であり、近年も斐川なぎさ公園、秋鹿なぎさ公園、岸公園などの湖畔公園、水辺を活かした県立美術館や宍道湖ネイチャーランドの整備、堀川遊覧船が運航する松江堀川の導水事業など、地域づくりへの活用が進んでいる。さらに、昨年度は後世に残すべき風景として宍道湖水辺八景が新たに選定されるなど、水辺と暮らしのあり方を考える多くの材料を提供している。

経済の衰退や加速する少子高齢化などの課題を克服し、斐伊川流域が活力ある地域を創造してゆくには、地域への愛着を取り戻し、地域資源をうまく活用していく視点と努力が欠かせない。

そこで、宍道湖周辺の取り組みなどをモデルケースとし、斐伊川流域の水辺の地域づくりや水辺景観のあり方などについて提言をいただくことを目的に、「斐伊川流域の水辺を考える懇談会」を設立し、将来にわたる斐伊川流域発展の一助とする。

（参考資料２）

【斐伊川流域の水辺を考える懇談会委員名簿】

氏　　名	所　　属
木幡　修介	山陰中央新報社相談役
塩飽　浩一郎	日本旅行業協会島根地区会会長
田江　泰彦	島根経済同友会代表幹事
野津　登美子	ホシザキグリーン財団企画交流課長心得
福島　律子	松江市教育委員会教育長
藤岡　大拙　（座　長）	島根県立島根女子短期大学名誉教授
丸　　磐根	島根県商工会議所連合会会頭
吉田　薫	風景研究室代表

敬称略、五十音順